

平成29年5月19日

各位

会社名 株式会社ソフトフロントホールディングス
 代表者名 代表取締役社長 阪口 克彦
 (JASDAQ・コード 2321)
 問合せ先 執行役員財務担当 五十嵐 達哉
 電話 03-6550-9270

平成29年3月期通期連結業績予想との差異に関するお知らせ

平成28年5月15日に公表しました平成29年3月期(平成28年4月1日～平成29年3月31日)通期連結業績予想と実績に差異が生じたので、下記のとおりお知らせいたします。

記

1. 平成29年3月期(平成28年4月1日～平成29年3月31日)通期連結業績予想値との差異

| | 連 結 売 上 高 | 連 結 経 常 利 益 |
|----------------------|--------------------|---------------|
| 前回発表予想 (A) | 百万円 2,500～3,700 | 百万円 30～200 |
| 実績値 (B) | 1,737 | △673 |
| 増減額 (B-A) | △762～△1,962 | △703～△873 |
| 増減率 (%) | △30.5～△53.0 | — |
| (ご参考) 前期実績(平成28年3月期) | 346 | △468 |
| (ご参考) 前期実績からの増減率 (%) | 401.8 | — |

2. 差異の理由

平成29年3月期において、当社は持株会社によるグループ経営体制に移行し、新たな市場への挑戦やスピーディなニーズ対応を進め、また、M&Aを基軸とした事業基盤の強化に取り組んで参りました。特に後者のM&Aについては、株式会社筆まめ、株式会社AWESOME JAPAN及び株式会社グッドスタイルカンパニー(以下、「グッドスタイルカンパニー社」という。)と1年間で3社というハイスピードで手掛け、また、株式会社コロコニ、デジタルポスト株式会社及び株式会社エコノミカルについても連結子会社化しております。

業績予想の連結売上高及び連結経常利益との乖離が生じた主な要因は、当初、M&Aにより複数の企業の買収を見込んでいた中、見込んでいた時期及び利益規模のM&Aを実施できなかったこと、経費面において、M&Aのための一時的費用が想定以上に嵩んだことがあります。

なお、この時点での差異の開示となりましたのは、M&Aに関する通期決算の処理方法が本日最終確定したためであります。

詳細につきましては、本日発表いたしました「平成29年3月期 決算短信〔日本基準〕(連結)」をご参照願います。

3. その他

前期実績との比較において、M&Aを基軸としたグループの拡大が奏功し、連結売上高は増加率401.8%の著しい伸びとなっております。平成30年3月期も引き続きM&Aを基軸とした事業基盤の強化に取り組み、業績拡大に努めてまいります。

以上